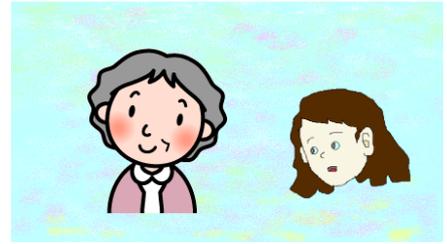


【月曜朝会の話 7月①H270706】

『ちょうどよかった……。』



「お早うございます。(おはようございまあす。)」

今日から新しい週が始まります。あいにくの雨ですが、6年生の合図で元気お話しました。

今、何気なく当たり前にいっしょにいる友だちも大切な友だち。自分のまわりに当たり前にいる人たちを、大切にしていますか？

今日は人を思いやる話、「ちょうどよかった。」というお話をします。

今私は、西武池袋線の石神井公園という駅からバスに乗って学校まで来ています。この駅は最近、高架線といって、電車のホームが、4階建てか5階建てのビルくらいの高いところに移動してしまいました。ですから電車から降りると80段くらいの階段を下りなければなりません。ですから、ホームにはエレベーターがあって、多くの人が利用しています。このエレベーター。まわりがガラス張りになっていて外から乗っている人が見えます。なかからは外の人や景色が見えます。先週、このエレベーターにおばあさんが乗ろうと思って向かっていると、若いおじさんやお姉さんたちが急ぎ足で追い越すと、さっさと乗って(このおばあさんには気づかずに)行ってしまいました。おばあさんはやれやれという顔で待っていました。この様子を見て、以前地下鉄に乗って遠くの学校へ行っていた頃のことを思い出しました。

それが、『ちょうどよかった』と言う話です。聞いてください。

以前は学校へ行くのに地下鉄を使っていました。その地下鉄は地下深くを走っているの、会談も80段どころではありません。だから、エスカレーターやエレベーターを使わないと大変です。

そんな、朝、学校に来る途中の地下鉄の電車で、時々足が不自由で杖を使っているおばあさんにお会いします。いつも同じ駅で乗って同じ駅で降ります。そしていつも私と同じ、エレベーターの近くに降りることのできるこの車両に乗ってきます。そしてこの日もこのおばあさんが乗っていました。

電車が地下鉄の目的の駅に着くと、何人かの人エレベーターに向かって足早に急ぎます。私も同じように急ぎ足でエレベーターに乗りました。

すると、やはりいつも同じ車両に乗り合わせている高校生くらいの女の子が、エレベーターの入り口でガサゴソやっていて、なかなか乗ってきません。

思わずエレベーターに乗っているおばあさんが「早く乗って。みんな急いでいるんだから。」といいますが、「ちょっと待ってください。」といいながらなかなか乗っては来ません。

時間にすれば20秒くらいなのかもしれませんが、とても長く感じました。

そこへ、さっきのおばあさんがゆっくりとエレベーターのところに近寄ってきて『あらまあ、ちょうどエレベーターが来ていてよかったわ、助かったわ。』

とってエレベーターに乗ることができました。

すると・・・、安心したように先ほどの高校生の女の子もおばあさんの後から乗ってきました。（そうかそうだったんだ・・・。この子は、いつも見かけるこのおばあさんをエレベーターに乗せてあげようと思って、待っていたんだ・・・。）

エレベーターのドアが閉まり、ウィーン・・・と動き出しました。

さっき、高校生に早く乗りなさいといていたおばさんも、この女の子の気持がわかって、女の子と目を合わせてにっこりしながらうなずいていました。ついさっきまでは「はやくしてよ。」と、ちょっとこわい顔をしていた（私もそうだったかも・・・。）エレベーターに乗り合わせた他の人たちも、みんな笑顔です。

桃五の皆さんならわかりますよね。エレベーターがちょうどよく来たのではなくて、ちょうどよく、優しい高校生と、出会えた・んですよ・ね・・・・。

桃五の皆さんにはわかるでしょ・・・。